

■三島海雲 (カルピス)創業者。〈大正デモクラシー〉象徴する“初恋の味”のコピーなど、卓越したアイディアマン。

みしまかいうん

大久保暗殺・1878＝ 大阪府下萱野村(箕面市)で、浄土真宗本願寺派水稲山教学寺の住職の長男に生まれる。

明治14年政変1881＝ 3歳：

国民之友始・1887＝ 9歳：

帝国憲法発布1889＝11歳：

大津事件・・・1891＝13歳：漢学塾(弘深館)に入り、大田北山に学び、多くの感化を受ける。生来吃音で、軍人・政治家・法律家などにはなれないと自覚し、尊敬する法然の道を進もうと、本願寺文学寮への入学を決意し、

大本教・・・1892＝14歳：受験のため、その予備校(反省会)に入り、のちの“国民利福”の精神が培われ始める。

郡司千島探検1893＝15歳：本願寺文学寮予科2年に編入学、

日清戦争始・1894＝16歳：

人望厚く、

白馬会・・・1896＝18歳：寄宿舎舎監兼教師として赴任してきた杉村楚人冠と出会い、英語を学ぶとともに、

子規句歌革新1898＝20歳：この年文学寮を退職した楚人冠には、その人脈を含め生涯にわたって支えられるようになる。

Bushidou・・・1899＝21歳：卒業。英語教師として、山口の本願寺系開導中学に赴任、

教科書疑獄・1902＝24歳：本願寺文学寮の学制改革で創設された仏教大学に無試験で入れることになったため辞職し上京、3年に編入されるも、**恩師の推挽で北京の日本語学校(東文学舎)に中国語研鑽を兼ねて赴任することになり、**

日比谷公園・1903＝25歳：中退して青少年憧れの中国へ渡るが、日本の山林王土倉庄三郎の子五郎と出会うや、雑貨貿易商(日華洋行)を設立して実業家に転身、馬車を引き、大陸各地で日本の雑貨等を販売。三井物産天津支店長だった森格はじめ多くの人脈を得て行く。

日露戦争始・1904＝26歳：土倉四郎の依頼で、日本軍部から軍馬調達の指名を受け、**内蒙古に入り、**

日露戦争終・1905＝27歳：

満鉄発足・・・1906＝28歳：**克什克騰旗(ケシクテン)でジンギスカンの末裔鮑一族の元に滞在。酸乳に出会う。現地地で体調を崩し、瀕死の状態にあったが、勧められるままに酸乳を飲み続けたところ回復を果たし、のちに、'異郷の地で不老長寿の靈薬に出遭った思い'だったと記している。当初の目的であった綿羊事業に失敗、**

明治天皇没・1912＝34歳：辛亥革命を機に、全ての事業を手放して、

第一次大戦始1914＝36歳：

21ヶ条要求・1915＝37歳：

帰国。大阪のミルクホールで試食したヨーグルトが美味しくなかったことから、“心とからだの健康”も願って、酸乳、乳酸菌を日本に広めるべく、製品開発に取組み、著名な専門家たちからも激励されて、

民本主義・・・1916＝38歳：

ロシア革命・1917＝39歳：

***[醍醐味合資会社]を設立。乳酸菌で発酵させたクリーム“醍醐味”、脱脂乳を発酵させた“醍醐素”を発売、**

ベルサイユ条約・1919＝41歳：

大暴落・・・1920＝42歳：

原敬首相暗殺1921＝43歳：

水平社結成・1922＝44歳：

続けて[ラクター株式会社]を恵比寿に設立し、生きた乳酸菌が入った“ラクターキャラメル”などを発売するもことごとく失敗するが、人徳により、楚人冠はじめ、多くの一流の人物から援助を得、

関東大震災・1923＝45歳：

試行錯誤の末、“醍醐素”を改良した日本初の乳酸菌飲料の大量生産に成功、“カルピス”と名付けて発売。文学寮時代の後輩驪城卓爾提案のキャッチフレーズ“初恋の味”を、子供にどうかと悩みながらも採用、

円本時代始・1926＝48歳：

満州事変・・・1931＝53歳：

五一五事件・1932＝54歳：

広告で杉浦非水はじめ一流人を起用するなど、あらゆる面で“日本一主義”を流儀とし、

***“初恋の味”の新聞広告を出すも、世論を二分するが、結果的に大ヒット、動物愛護会とのタイアップしたイベント“伝書鳩レース”を開催して大好評、一流詩人を審査員にした童謡募集では2万数千編の応募、**

[ラクター株式会社]を[カルピス製造株式会社]に商号変更。第一次大戦後のインフレに悩むドイツ中心とするヨーロッパの商業美術家救済事業として多額の賞金をかけた宣伝用ポスターの国際コンペを実施して大反響、3等に入った“黒人マーク”は以後長く国民から愛されるものになるなど卓抜したアイディアマンぶりを示す一方、関東大震災時には被災者に無料でカルピスを配って歩くなど、“国民利福”の精神も発揮、現在の企業コミュニケーション戦略をも先駆する。

日中戦争始・1937＝59歳：

日米開戦・・・1941＝63歳：

敗戦・・・1945＝67歳：

三大事件・・・1949＝71歳：個人的に、{三島商店}を創業。カルピス社、東京証券取引所に株式上場。

朝鮮戦争始・1950＝72歳：

独立回復・・・1951＝73歳：

TV放送始・・・1953＝75歳：{三島商店}を発展させ、蜂蜜・ローヤルゼリーを製造販売する{三島食品工業株式会社}を設立。

国連加盟・・・1956＝78歳：自らの資金とカルピス・明治乳業の出資によりピルマン製造株式会社(パンピー食品株式会社)を設立。

なべ底不況・1957＝79歳：

美智子妃・・・1959＝81歳：

安保闘争・・・1960＝82歳：

全国総合計画1962＝84歳：

大学紛争始・1965＝87歳：

大阪万博・・・1970＝92歳：

角栄金脈辞任1974＝96歳：

築地本願寺和田堀場所境内に顕彰碑が建立される。

全財産を投じて{三島海雲記念財団}を設立し、以後毎年科学研究へ奨励金。

勲三等瑞宝章。現在まで続く幼稚園・保育園児への“カルピス”ひなまつりプレゼントも始めた。

***社長を勇退し、**

没した。

後藤文顕「カルピス創業者三島海雲の企業コミュニケーション戦略」、インターネット「カルピス社」ほか、